

名古屋まつり協賛

日本古武道大会

日時 平成30年10月21日(日) 午前の部 10:30~12:00
午後の部 12:00~16:00

場所 熱田神宮神楽殿前広場 <午前の部>
熱田神宮文化殿講堂 <午前の部・午後の部>

(駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。)

主催 日本古武道振興会

目 次

I 挨拶

名古屋まつり協進会 会長	河村たかし	1
日本古武道振興会 会長	飯篠 快貞	2
日本古武道振興会 副会長 愛知県支部長	柳生耕一 厳信	3

II プログラム・演武者名簿 (演武順)

午 前 の 部 <熱田神宮神楽殿前広場>

1. 小笠原流弓馬術礼法・墓目の儀及び、百々手式	4
--------------------------	---

<熱田神宮文化殿講堂>

1. 合 気 道	5
2. 柳生新陰流兵法	5
3. 神道夢想流杖術及併伝武術	5
4. 鞍馬流剣術	5
5. 天道流なぎなた	5
6. 柳生制剛流抜刀	6

午 後 の 部 <熱田神宮文化殿講堂>

1. 小笠原流弓馬術礼法・騎射の型	7
2. 柳生制剛流抜刀	7
3. 無雙神傳英信流抜刀兵法	7
4. 立 身 流	7
5. 澁川一流柔術	7
6. 竹内流腰廻小具足	7
7. 琉球古武術	8
8. 柳生心眼流體術	8
9. 宝蔵院流高田派槍術	8
10. 神道夢想流杖道	8
11. 神道無念流剣術	8
12. 関口流抜刀術	8
13. 心形刀流剣術	9
14. 神道夢想流杖術	9
15. 新陰流居合術	9
16. 柳生新陰流兵法	9

Ⅲ 流派紹介 (あいうえお順)

1. 合気道	10
2. 小笠原流弓馬術礼法・墓目の儀及び、百々手式	10
3. 小笠原流弓馬術礼法・騎射の型	10
4. 尾張貫流槍術・柳生新陰流兵法	11
5. 鞍馬流劍術	11
6. 澁川一流柔術	12
7. 新陰流居合術	12
8. 心形刀流劍術	13
9. 神道夢想流杖術	13
10. 神道夢想流杖道	14
11. 神道無念流劍術	14
12. 関口流抜刀術	15
13. 竹内流腰廻小具足	15
14. 立身流	16
15. 天道流なぎなた	16
16. 宝蔵院流高田派槍術	16
17. 無雙神傳英信流抜刀兵法	17
18. 柳生新陰流兵法	17
19. 柳生心眼流體術	18
20. 柳生制剛流抜刀	18
21. 琉球古武術	19

Ⅳ 道場及び教場所所在地一覧

20

祝 辞

名古屋まつり協賛第57回「日本古武道大会」の開催、誠におめでとうございます。

本大会がこのように盛大に開催されますのも、ひとえに日本古武道振興会ならびに関係の皆さまが日ごろから伝統武道の保存・発展にご尽力を重ねてこられた賜物であると、心から敬意を表します。

昨年、開催予定であった第56回大会は、台風の接近に伴い中止となり、残念な思いをされた方も大勢いらっしゃったことと思います。昨今、こうした台風による大雨や地震などの自然災害が全国各地で発生しており、本年も6月の大阪府北部を震源とする地震や平成30年7月豪雨が大きな被害をもたらしました。一方で、こうした災害時においては、人々がお互いに思いやりの心をもって助け合うことで、多くの尊い命や貴重な財産が守られているように思います。これは、日本人が古来より育んできた「信義・礼節・友愛」といった精神文化が根付いているからではないでしょうか。

日本古武道は、平安末期から室町期にかけて生まれ、その後、明治維新の動乱を経て今日まで伝承されてきたと伺っています。日本古武道の各流派の皆さまが努力研鑽を重ねられ、時代の変革を乗り越えて今日までその伝統を守り、技と心を伝えてこられたと言うことです。そうした不断の努力こそが、私たち日本人の精神文化を支えていることは言うまでもなく、日本が誇るべき伝統文化の継承にご尽力されている皆さまに、改めて敬意を表します。

さて、名古屋市には、歴史・文化に根差した観光資源が豊富に存在しています。その中でも、観光の核と位置づけている名古屋城では、近世城郭御殿の最高傑作と言われた本丸御殿が本年6月に完成公開を迎えました。江戸時代に建てられた本丸御殿は、昭和20年の空襲によって惜しくも焼失してしまいましたが、本市では、豊富な資料のもと、市民の皆さまによる機運醸成の取り組みや多額の寄附に支えられ、古くから受け継がれてきた伝統の技法により壮麗な御殿の復元を進めてきました。本市においても、歴史の中で受け継がれてきた伝統の技や心を大切に、次の世代へと伝えてまいりたいと考えています。本日お集まりの皆さまにおかれましては、引き続き、本市の取り組みへのご理解とご協力をお願いいたしますとともに、ぜひこの機会に名古屋城へ足を運んでいただければと思います。

本日は、長い年月の中で磨きあげられてきた各流派の皆さまの演武を通して、日本の伝統文化の素晴らしさを市民の皆さまに感じていただけるものと大いに期待しています。本大会のご成功と貴会の今後ますますのご発展ならびに、本日お集まりの皆さまのご活躍とご健勝を祈念いたします。

平成30年10月21日

名古屋まつり協進會会長
名古屋市長 河村 たかし

ご 挨拶

このたび、名古屋まつり協賛第57回熱田神宮奉納日本古武道大会が開催されますことは、日本の誇るべき古武道文化財の保存振興のため誠に喜ばしきかぎりであります。

今日まで数百年の長きにわたり綿々と伝えられてきた古武道は、古人が戦場で生と死を賭けた戦いの中で習得した実戦武術であります。それが武士の誉れの信条であります。仁、義、礼、智、信とともに様式美さえ醸成され、日本の誇るべき伝統文化財の一つとなったものであります。そしてこの古武道は歌舞伎、演劇、映画、文学、美術などの日本文化に大きな貢献をしており日本語にまで影響を及ぼしております。まさに時空を超えた日本の表象文化と言えるものであります。

この古武道に魅力を感じた外国人も最近多くなり、各流派に多数入門し修行しております。

日本古武道振興会はこの貴重な文化資産である古武道の保存振興を目的として発足し、毎年各地で古武道大会を開催するとともに、さらに我が国における醇風美俗の維持啓発、青少年健全育成、体力増進などを掲げ活動し、今年は創立83周年を迎えております。

本日の大会は、日本古武道の保存、振興の見地から、真に有意義であり、それぞれ由緒ある流儀を承け継がれ、その道を極められた先生方によって演武されます。ご観覧の皆様におかれては、古武道の素晴らしさを認めてくだされば誠に幸甚と存じます。

日本古武道振興会

会長 飯篠 快貞

ご 挨拶

第57回「日本古武道大会」が、名古屋まつり協賛の行事として行われますことにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

ご承知のように、古武道は生命を懸けた戦いの中から相手を倒す必勝の技術を工夫して体得したことから始まりました。刀、槍、弓、杖、棒、体等を使用した武術にそれぞれ名人、達人が輩出されて、室町時代末期には各流派が誕生しました。その後、時代の変遷に伴い、徳川時代になると古武道は実戦的な技術の習練のみではなく、むしろ人間的な完成を目指す自己修養の道として、特に武士の表芸である欠かせない教養として尊重されるに至りました。古武道こそ武士が生み出した武家文化の精髓であると言えるものであります

剣を学ぶについて柳生兵庫助利厳は「三摩之位」という教えを残しております。則ち、祖師・先哲の正しい教えを、千鍛万錬の稽古を通し、工夫して自分の血肉とすることを表す、「習、稽古、工夫」であります。また、柳生石舟斎宗厳は柳生家憲の中で「昨日の我に今日は勝つべし」と、日々自分自身を向上させるように努力せよと訓示しております。

今日、ここに各流派の代表の方々が真剣に行います演武は、心身一如で行う我が国の伝統的な文化の結晶であります。我々は、この貴重な文化を風化させ喪失することなく次世代に正しく伝えていく責任があり、本日は、その責務を果たす絶好の機会であります。ご高覧の皆様にとりまして日本の伝統文化と古武道の関係を見出す機会となれば幸甚であります。

最後になりますが、今日の大会の盛況は名古屋市、並びに名古屋市緑政土木局の多大なるご後援とご尽力、そして各流派の先生方と古武道を暖かく支えて下さる皆様のご協力の賜物であると心から感謝申し上げます。

日本古武道振興会
副会長 愛知県支部長
柳生新陰流兵法第二十二世宗家

柳生耕一厳信

プログラム

午 前 の 部

(熱田神宮神楽殿前広場)

1. 小笠原流弓馬術礼法・藝目の儀及び、百々手式 (流祖) 小笠原長清

小笠原弓馬術礼法教場、三十一世宗家・門人一同

宗 家 小笠原 清忠

宗家嫡男 小笠原 清基

今 村 祝	今村 はつ代	村 田 幸 一
安藤 ひろ美	兼 松 邦 夫	兼 松 正 子
中 島 幸 子	福 留 裕 晃	和 田 大 地
伊 藤 宏	須 名 和 夫	九 里 孝 義
武藤 都代美	稲 垣 雅 男	猪 谷 崇 明
長谷川安成	山 下 佐 智 子	長 澤 潔 子
中 尾 淑 子	林 貴 子	菊 池 建 策
鈴木五十鈴	安藤 十九二	水 野 稔
山 田 彭 一	梅 田 克 一	稻 川 幸 三
柏 木 功	星 野 卓 司	関 根 崇
峯 茂 康	鈴 木 浩 一	八 田 英 明
太田加壽子	宮 崎 里 美	小 川 奈 美
林 厚 成	佐 藤 昌 二	西 能 成
森 優 史	武 山 大 貴	浅 野 邦 仁
竹 内 初 重	宮 下 克 美	棚 橋 美 喜 子
舟 橋 めぐみ		

午 前 の 部
(熱田神宮文化殿講堂)

1. 合 気 道 (開祖) 植 芝 盛 平
滝 本 清 三 中 山 栄 一 池 田 信 城
樺 山 悟 堀 江 彰 真 野 明 日 人
小 司 博 基 佐 藤 俊 也 佐 藤 大 輔
佐 藤 ゆ う み 井 上 博 行 清 水 寿 史

2. 柳生新陰流兵法 (流祖) 上泉伊勢守 藤原信綱
鈴 木 泰 充 伊 佐 治 誠 加 藤 成 年
ジョシュア ライヤー 玉 越 薫 山 川 慎 太 郎
三 宅 敬 細 井 和 子

3. 神道夢想流杖術及併伝武術 (流祖) 夢想権之助勝吉
三 澤 芳 郎 片 田 征 治 松 宮 政 重
坂 下 國 晴 石 丸 聖 也 古 川 美 好
松 木 平 浩 司 松 宮 百 合 石 川 桂 子
稲 生 恭 子 木 村 恵 子 大 山 美 砂

4. 鞍馬流剣術 (流祖) 大野 将監
柴 田 章 雄 松 井 康 一

5. 天道流なぎなた (流祖) 斎藤判官伝鬼房勝秀
小 林 静 子 安 達 ふ み 子 渥 美 メ 代
岡 本 教 子 加 藤 寛 子 新 川 ミ キ
滝 口 眞 澄 武 山 敦 子 宮 田 尚 美
横 山 恵 美 子 若 原 貞 子

6. 柳生制剛流抜刀

(流祖) 水早長佐衛門信正

太 田 俊 介 小 川 友 之 鈴 木 保 幸
高 木 要 馬 三 宅 敬

午 後 の 部
(熱田神宮文化殿講堂)

1. 小笠原流弓馬術礼法・騎射の型 (流祖) 小笠原長清
(演武者) 小笠原弓馬術礼法教場、三十一世宗家・門人一同
武藤都代美 佐保川誠 中山隆夫
鈴木浩一 和田大地 猪谷崇明

2. 柳生制剛流抜刀 (流祖) 水早長左衛門信正
福安實夫 柴田幸芳 ジョシュア ライヤー

3. 無雙神傳英信流抜刀兵法 (流祖) 林崎甚助重信
森本邦夫 内住信之 林大介
角田梓

4. 立身流 (流祖) 立身三京
栗原実

5. 澁川一流柔術 (流祖) 首藤藏之進満時
森本邦夫 内住信之 林大介
角田梓

6. 竹内流腰廻小具足 (流祖) 竹内中務大輔源朝臣久盛
竹内藤一郎 小島康男 小島颯真

7. 琉球古武術

(静岡) 渡辺俊明 横田秀穂 萩原 壽
(東京) 道正泰弘
(和歌山) 吉田 実 山口量也

8. 柳生心眼流體術 (流祖) 荒木又右衛門吉村

宗 家 梶塚靖司
寺久保敦也 甲斐 正 藤澤勝也

9. 宝蔵院流高田派槍術 (流祖) 宝蔵院覺禪房法印胤栄

宗 家 一 箭 順 三
目 録 佐 藤 寛 西 堀 清 作 船 谷 哲 司
加 藤 了 嗣 千 田 拓 治
伝 習 生 粟 飯 原 篤 史 (説明者)

10. 神道夢想流杖道 (流祖) 夢想権之助勝吉

濱 地 光 男 富 田 隆 鈴 木 一
鈴 木 裕 司 上 川 純 一 吉 田 真 吾
宮 島 孝 之 牧 野 恭 実 鈴 木 久 之
平 野 雅 彦 渡 邊 隆 尾 関 俊 輔
中 尾 晋 介 田 邊 真 福 岡 啓 太
松 田 克 也 名 倉 隆 裕 古 田 浩 俊
清 水 哲 也 伊 藤 颯 馬 近 藤 大 智

11. 神道無念流劍術 (流祖) 福井兵右衛門

小 川 武 萩 崎 昭 土 屋 正 則
浅 野 史 明 山 谷 怜 子

12. 関口流抜刀術 (流祖) 関口八郎左衛門源實親

宮 寄 勇 夫 德 井 哲 夫 坂 下 忠 國
山 際 英 人 市 岡 徹 也 稻 垣 幸 男

13. 心形刀流劍術 (流祖) 伊庭是水軒秀明

小林 強	加藤 尚大	佐脇 慎也
小崎 真也	横山 奏洋	野仲 治行

14. 神道夢想流杖術 (流祖) 夢想權之助勝吉

三澤 芳郎	片田 征治	松宮 政重
坂下 國晴	石丸 聖也	古川 美好
松木 平浩司	松宮 百合	石川 桂子
稲生 恭子	木村 恵子	大山 美砂

15. 新陰流居合術 (流祖) 柳生但馬守平宗嚴

鹿嶋 清治	木下 登	井上好美
水野 孝男	樋江井和之	宮田 壯一郎
和田 英之		

16. 柳生新陰流兵法 (流祖) 上泉伊勢守 藤原信綱

柳生 耕一 嚴信	石黒 峰司	高山 潤一
鈴木 泰充	小川 友之	加藤 成年
細川 和宏	鈴木 保幸	